

校 園 名：鹿 児 島 大 学 教 育 学 部 附 属 幼 稚 園

所 在 地：〒 8 9 0 - 0 0 6 5 鹿 児 島 県 鹿 児 島 市 郡 元 一 丁 目 2 0 - 1 5

記 載 日：平 成 2 8 年 5 月 2 0 日 記 載 者：日 澤 俊 夫 記 載 者 役 職：副 園 長

校 風 ・ 特 色

1 本園の使命

- (1) 幼稚園教育の本質に基づき、一人一人の豊かな人間性の芽生えを培う。
- (2) 教育学部と協力して、幼稚園教育に関する理論的・実践的研究を行う。
- (3) 教育実習園として教育実習を行うとともに、学生や大学教員による幼児の観察や教育研究への協力を行う。
- (4) 鹿児島県幼稚園教育の向上のため、研究や実践を公開するとともに、相談・指導への協力を行う。

2 経営の方針

- (1) 公教育に携わる者としての自覚と責任をもち、憲法や教育基本法、県や市の基本方針や努力点、附属学校園の目的を踏まえ、調和のとれた教育を推進する。
- (2) 創立137年の使命と責任を自覚し、地域に根ざした歴史と伝統の更なる発展・充実を図る。

卒 園 生 の 活 躍 状 況

1 追跡調査の有無

無

2 把握の状況

附属中学校の進路状況に基づき、方向性は把握できている。

3 状況

卒園生の多くは、医師、弁護士、大学教授、会社社長・重役など社会における要職に就いている。また、芸能人にも本園の卒園生がいる。

勤 務 経 験 者 の 活 躍 状 況

1 追跡調査の有無

有

2 把握の状況

鹿児島大学教育学部四附属学校園OB会名簿に基づき、把握できている。

3 状況

勤務経験者の多くは、鹿児島県内の公立小学校に戻り、学校長や教務主任等、各学校の主要ポストを担っている。また、指導主事等、行政で手腕を発揮している方々もいる。

地域における存在価値

1 「あいさつ運動」の実施

幼稚園正門前を「あいさつロード」と名付け、通学・通勤途中の学生や一般住民等に「あいさつは気付いた者からすればよい」の考えの基、「あいさつ運動」を展開している。あいさつをすることは、不審者から身を守る手立ての一つとしても有効で、「声掛け事案」や「連れ去り事案」の発生はない。

2 公共施設及び公共人材・地域人材の活用

各種行事等で、園区内の公共施設や畑、公共人材及び地域人材の活用を図っている。本園の園児はもちろんのことだが、地域の高齢者の方々から、生きがいにつながると好評を得ている。

3 子どもたち向け体験プログラムの実施

地域への「園庭開放」や「どんぐりクラブ」（子どもたち向けの体験プログラム）等の実施により、小さなお子様をもつ保護者やお孫さんの世話をしている方々から好評を得ている。

4 地域住民の要望集約

学校評議員会評議員の中に地域住民代表枠を設け、地域の方々が望む附属幼稚園の在り方や要望等を集約している。真摯な意見をいただくことで、地域における存在価値は、年々高まっていると感じている。

5 卒園生の活躍

卒園生の多くは、医師、弁護士、大学教授、会社社長・重役など社会における要職に就いている。そのことは地域の活性化にも寄与している。

附属学校園の存在意義

1 「保育を語る会」「研究公開」の実施

年1回の研究公開（H28からは、「保育を語る会」と「研究公開」を隔年実施）を通して、鹿児島県幼稚園教育の向上及び相談・指導への協力ができている。

2 教育実習への協力

教員免許取得のための「教育実習」を附属幼稚園が担うことで、学生の質及び意欲の向上に結びついている。

3 教員免許状更新講習や新規採用者研修への協力

「教員免許状更新講習」や「新規採用者研修」を附属幼稚園が担うことで、県内に勤務する幼稚園教諭の資質及び意欲の向上に結びついている。

4 教職大学院設置への協力

教職大学院設置（H29年度）など大学改革の今後を見据え、附属幼稚園の役割を明確にし、その責務を積極的に果たすことで、本県大学院（大学）進学率の向上（鹿児島県の大学進学率は低い）及び県内に勤務する教員の資質及び意欲の向上に結びつく。

5 卒園生の活躍

卒園生の多くは、附属小学校・附属中学校に進み、その後、有名私立高校や県内有名進学校へと進学し、医師、弁護士、大学教授、会社社長・重役など社会貢献を果たしている。

附属学校園への進学は、明日の鹿児島県を背負う人材育成のモデルとなっており、鹿児島県の発展のために必要不可欠であると自負している。

特色ある取組①（PTA活動）

1 読み聞かせ同好会「トトロの会」

読み聞かせを通して、子どもたちがたくさんさんの絵本に出会い、親しめることを願って、平成13年にPTA有志が立ち上げた同行会である。

「園庭開放」における読み聞かせの他、「お月見会」等で、手遊び歌やブラックシアター、クイズ形式の影絵なども行っている。

会員は、子どもの純粋な反応や絵本との出会いのすばらしさに元気をもらっている。



【園庭開放時の読み聞かせ】

2 PTA講演会

年3回のPTA講演会を開催している。前年度の保護者アンケートをもとに、講師の選定を行い、PTA会員のニーズに応えている。

本園のスタンスは、保護者のみならず、子どもたちと保護者の両方が参加できることを最優先している。



【親子ふれあいリズム遊び①】

【保護者の感想】

親子ふれあいリズム遊びに参加してドレミ体操を気に入った息子は、笑顔でリズムにのって手拍子や足踏みをして、うれしそう。親子で楽しめました。日ごろ、子育てに追われて運動不足な毎日ですが、先生に教えていただいた体操は、自宅で気軽にできそうなので、無理なく続けて健康維持に役立てたいです。

さあ、がんばるぞ。



【親子ふれあいリズム遊び②】

3 親子水遊び

毎年、水遊びのシーズンになると「親子水遊び」を実施している。

ねらいとしては、親子のふれあいはもちろんのこと、水の楽しさとちょっぴり怖さを体験することで、水の事故を防止することにある。

【保護者の感想】

いよいよ入水、今回は、お友達と娘と3人で手をつなぎ、人間洗濯機をしました。ぎゅっと手を握ってくれて、温かい気持ちになりました。お母さんたちの手の上を渡るベルトコンベアーでは緊張した表情が印象的でした。潜る練習を始めた娘に成長を感じました。



【附小プールを借用した親子水遊び】

特色ある取組②（大学との連携）

1 「木育」への取組

木育とは、木材のよさやその利用の意義を学ぶ教育活動のことである。「木材に親しみをもつ（触れる活動）」「木材のよさを生かした創造活動を行う（創る活動）」「木材の環境特性を理解し、木材を日常生活に取り入れる（知る活動）」を段階的に進めることで、様々な素質をもった子どもたちを、あたかも花が開くように育むことが期待される。

このプロジェクトが始まって、今年で3年目となる。最初は、研究のためのお手伝いであったが、今では、園の目玉行事の一つとなっている。

特に今年度は、活動の様子がテレビで放映されるなど、園の教育活動の様子を広く知っていただく、よい機会となった。



【木育プロジェクト①木のタワー】



【木育プロジェクト②木のプール】

2 木育プロジェクトについて

(1) 開発等の目的

鹿児島県産材を用いた「木育」教材の開発を行い、次世代を担う子どもたちへの県産材利用の意義と重要性について、習得する教育プログラムを提供し、県産材についての正しい知識と利用の意義を身につけさせ、普及啓発することを目的としている。

(2) 得られた成果

「木育」を推進するために開発された「木育プロジェクト」は、鹿児島県産材を素材に「触れる」→「創る」→「知る」の3ステップで発展的に活用することができた。

これまで木材の知識のなかった子どもたちも、木材のよさを感じ、その温もりを感じていた。また、ここで得た知識は、日常の遊び等に十分活用されている。



【木育プロジェクト③木育の宝箱】



【木育プロジェクト④木育パティシエ】